

大阪府豊中市で捕獲されたニホンスッポンの色素変異個体について

松浦蒼空¹・松浦大介¹・小坂直也²・上野真太郎³

¹ 561-0014 大阪府豊中市熊野町

² 654-0049 兵庫県神戸市須磨区若宮町1-3-5 神戸市立須磨海浜水族園

³ 113-8657 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻

Record of Soft-shell turtle, *Pelodiscus sinensis*, suspected of pigmentary abnormality at Toyonaka City, Osaka prefecture.

By Sora MATSUURA¹, Daisuke MATSUURA¹, Naoya KOSAKA² and Shintaro UENO³

¹ *Kumano-cyo, Toyonaka, Osaka, 560-0014, Japan.*

² *Kobe Suma Aquarium, 1-3-5, Wakamiya, Suma, Kobe, Hyogo, 654-0049, Japan.*

³ *Department of Ecosystem Studies, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo, 1-1-1 Yayoi, Bunkyo, Tokyo, 113-8657, Japan.*

ニホンスッポン(以下、スッポン)は丸く柔らかい甲羅をもった淡水ガメで、古くから食用にされており、日本の川や池でもその姿をよく見かける。スッポンの皮膚の色は通常、オリーブ色や暗褐色をしているが、今回、色素変異によって金色(明るい黄色)に見えるスッポンを発見したのでここに報告する。

2016年7月10日、大阪府豊中市上野東にあるため池で体色が通常と異なるスッポンを発見した。食パンに返しのない針を付けて、スッポンの前に投げるとすぐに食いつき、捕獲することに成功した。スッポンの体サイズは背甲長228.5mm、背甲幅170.0mm、腹甲長171.6mmであり、体重は1398gであった。スッポンの体色は明るい黄色で、光の当たり方によっては金色をしているように見えた(図1)。爬虫類の体色が専門の栗山武夫博士にこのスッポンの写真を見せたところ、皮膚の黒色素胞が何らかの影響で欠損し、本来黒色素胞の下部にある結合組織(コラーゲン等)によって全ての光が反射し、真皮の最上部にある黄色素胞を透過したことで、黄色になっていると推論された。体色が明るいこのスッポンは水中にいてもよく目立ち、捕獲した池にて3年前にも確認していたが、その際は捕獲できなかった。捕獲地点の池はブラックバスやブルーギル、ライギョ等、外来種が多く、カメ類はアカミミガメとクサガメを確認している。

スッポンの皮膚の色について考察をいただいた兵庫県立大学の栗山武夫博士にはこの場を借りて御礼申し上げます。



図1. 捕獲した色素変異のスッポン(右). 左上の個体は通常のスッポン(幼体)